

気象災害対応システムとして、緊急地震速報受信機器を設置します

関鉄西日本

関鉄西日本では、南海トラフ巨大地震やその他断層破壊等による地震に備え、震度3以上の地震が発生した場合の緊急地震速報を受信するための機械を駅やホーム、鉄道車両に設置します。

この受信機は、駅改札やホームそして車内においても地震の発生を知らせ、注意を促します。また、緊急地震速報を受信した場合、運行中の車両を緊急停止させるシステムを備えます。

これにより地震が発生しても、迅速な対応ができると考えています。

詳細

1 気象災害対策システムの導入目的

雨や風、地震などの気象事象の発生時には、適切に列車の運転規制・規制解除を行うために、輸送指令、施設命令および保線区などにおいて、多くの情報収集、伝達や確認作業が必要となります。

現在、雨量、風速を計測するシステムは導入済みです。しかし、更なる災害対策として「地震」という分野の災害対策システムを導入することで、輸送改善を見込んでいます。

今後は、雨、風、地震の他、河川等の水位、レール温度等の測定機器の導入に加え、これらを一括で管理できるシステムの開発を行い、関係各所間においける情報伝達誤りなどのヒューマンエラーのリスクを低減させることを目的としています。

2 使用開始時期と導入線区

2017年度内に近畿圏全線への導入完了予定です。